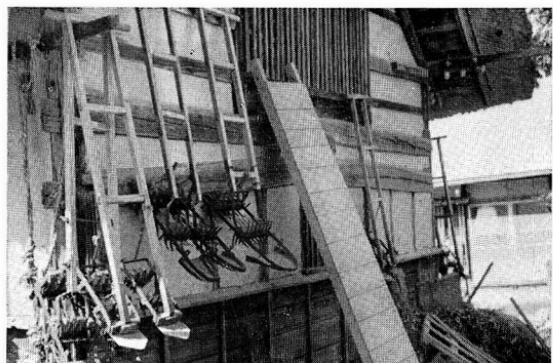


たる、何ばも組合せる地方が、福島県の中通り地方などにもあり、決して
つの近代農業の異変からきている。



除草機の発達、一台付きより二台つきへ 田村山にて

地方ではさなぶりといつてはいるが、ここでのさなぶりは高田伊佐須美神社のお田植祭をさなぶり、その翌日をこさなぶりといつてはいる。さは田の神で、田植を無事終つてお帰りになるという意らしいことは、民俗学の発達により、各地の資料を対比して、ほぼ定説になつてはいる。

7、田の草とり もとは素手で搔きとつてはいたが、やや固い田圃にはがん爪という、搔き取る道具ができる。つぎはころばしの発明である。これにも種々な改良が加えられて今に至つてはいる。除草薬などの発明が、この難渋な田の草取りの労働から農民を解放しようとしている。そして農薬に傷めつけられて、魚類などが小堀から姿を消し始めてはいるのも、一



田村山付近のさんばたてとほんに (41.10.16写す)